

2025年度 はろーはうす保育園 園評価書

1 はろーはうす保育園 年間保育目標

笑顔いっぱい みんなが主役

2 評価項目の達成及び取組状況と改善策

評価項目	取組状況と改善策
保育内容全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、主体性を育む関わりを行った。 ・子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、安心して過ごせる保育を心掛けた。 ・個別での関わりを深め、基本的な生活習慣の定着を目標に、丁寧な援助を行った。 ・全クラスで、野菜の栽培や収穫・クッキング活動などを通して、食への興味や関心を深められるよう取り組み、給食室と連携し、子どもたちが食に親しみを持てるよう食育活動の充実を努めた。 ・子どもの成長や小さな変化・情報を職員間で常に共有し、個々に応じた支援につなげた。 ・園内外で、様々な遊びを取り入れ、子どもたちがのびのびと体を動かしながら楽しめる環境づくりに努めた。 ・戸外遊びでは自然に触れる機会を大切に、季節の変化を感じながら興味や発見につなげることができた。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの小さな変化や思いに気付けるよう観察力を高め、個々に応じた関わりや援助の充実を図る。
保育環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も月に一度の安全点検（保育室内・玩具・園庭など）を行い、安全に保育できる環境を作った。 ・子どもたちの発達に合わせ、成長と共に保育室内の環境を見直して変えるようにした。 ・保育室等の掲示物・壁面・吊るし飾りなど季節等で変え、子どもたちが四季や行事が感じられる環境を作った。 ・夏季には熱中症アラームを使用し、指数が高い場合には室内で過ごすようにし、子どもたちの安全を確保し保育した。又水あそびは、園舎軒下で行い、直射日光を避け遊びやすい環境作りをした。 ・保育室内でも体を動かせる「動」の環境と落ち着いて遊べる「静」の環境を各クラス設けるようにした。 ・2才児では、身辺材を用意し、いつでも触れられるよう配置し、遊べるようにした。 ・2才児では、地域交流会に参加し、園外でも地域の方と交流をはかるような環境を作り、今年度も行った。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスや園全体で保育環境について学べる機会をつくっていく。 ・子どもたちが遊びこめる空間づくりを今年度も考えていく。
研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスリーダー会議として、週に1回各クラスのリーダー及び責任者と園長・主任とで各クラスの問題点や課題に対して意見を出し合い、考えることによって、一つずつ解決することができた。 ・週1回のクラスリーダー会議の内容を、会議録として全職員に回覧及びメール配信し、共有することができた。 ・外部研修においては、全職員が自身のスキルにあった研修に参加できるように配慮した。また研修内容は、月1度の園内研修でも全職員に報告し、共有することができた。 ・今年度は、担任でない職員が他園の公開保育に参加し、当園にとって良いところを積極的に取り入れながらより良い保育を目指すことができた ・園内研修に参加する職員が増え、コミュニケーションがとれ、保育を共有しながらできた。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を充実させていきたい。担任・フリー保育士・リーダーとの面談をもっとしていきたい。
家庭支援・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と話しやすい雰囲気を作るように努め、食事や家での様子を聞いたり、園での様子を伝え、共有できるように保護者一人ひとりに対する対応を心掛けた。 ・個々の様子は連絡帳への記入や送迎時に保護者と直接会話をすることで、より細かく丁寧に伝えられるよう心掛けた。 ・各クラス懇談会を行い、保育の進め方を保護者に知ってもらったり、また保護者同士で子育ての不安や悩みを共有する機会を作った。 ・希望のある家庭と個別面談を設け、担任と相談できる時間を作った。 ・保護者の体調不良にも気を配り、様子を見たり丁寧な対応を心掛け、子どもが生活リズムを崩さず過ごせるようにし、保護者の安心に繋がるようにした。 ・行事や日々の子どもたちの様子をこまめに一斉メールで配信し、伝えられるようにした。 ・感染症お知らせボードの位置を保護者の見やすい位置にし、一斉メールでも感染症について知らせ、周知できるようにした。 ・給食参観を行い、子どもが日頃食べている給食を試食したり、栄養士に直接相談する機会を作った。 ・特別な援助が必要な子の保護者と個別に面談を行い、食事や育児が成長に合っているかを確認しながら対応できるように配慮した。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉メール配信をより多く配信していきたい。クラスの様子だけでなく、給食室からの配信なども行っていきたい。

評価項目	取組状況と改善策
食育	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの畑（1,2歳児）やプランター（0歳児）で季節の野菜を育て、種まきや苗植え、水かけを通し、野菜の成長を楽しむことができた。 子どもたちが自分たちで野菜を収穫し、野菜の色やにおい、感触などを確かめ興味が持てた。 畑の中に入り、土（砂場や園庭とは違う）の感触やにおいにも触れられた。 収穫した野菜が給食で使用された時には、子どもたちに伝えると共に、展示食にも（〇〇くみが収穫した〇〇を使っています）と書き、保護者にも知ってもらえるようにした。 今年度も給食の援助を1対1で関わり、担当が個々のペースで楽しい雰囲気の中で食べられるようにした。 おにぎり給食を2か月ごとに行い、バイキング方式で自分で選んで取ったり、シートを広げて食べたり、いつもと違う食事を楽しむ事ができた。 収穫した野菜を使い、クッキングを行った。クッキングでは切る、盛る、丸める、混ぜる、など様々な工程を体験できた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに人気な給食メニューを定期的に保護者に提供したい。 クラスの絵本や貸出し絵本の中で、食べることや野菜の話ができる図鑑などを増やしていきたい。
安全管理 衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 保育室の壁、ロッカー、子どもの椅子、テーブル、乳母車や玩具等、子どもたちが触れる全ての物の消毒を毎日行い、常に清潔を保つようにした。 保護者との情報交換や担当保育士・看護師による健康チェックなど園児の健康状態を見逃さないように複数の職員で見守り、共有してきた。登園時や連絡帳を通して保護者と共有した。 月1回の身体測定時に看護師と担任が立ち合い、身体の様子をチェックするようにした。 1日3回、検温をして園児の体調確認をし、体調の変化にいち早く気づくように努めた。 防災訓練の年間予定を立て、月ごとに担当を決めて防災訓練を行い、それぞれ目的を持って参加し、より安全に子どもたちも職員も避難できるようになった。又、クラス毎反省を記録し、週1回のリーダー会議で報告し、共有することができた。 各クラスで用意している避難用リュックの配置場所を全職員に周知し、月に1回中身の点検を行い、万が一に備えた。 月1回の防災訓練時に、避難車（乳母車）の点検を行った。（防災ラジオの電池交換を月に1度行うようにした。） 年2回建物全体の防災訓練に今年度も参加し、同建物の社員に協力してもらい、声を掛けあって訓練がスムーズにできた。 月1回、各保育室をはじめ園庭、玄関、トイレ、廊下など子どもたちが使う個所の点検を行い、危険個所があれば修繕し、安全に保育ができた。 園内研修の中で、嘔吐処理方法、AEDの使い方、けいれん、ケガ発生時の対応を再度確認した。 けが報告、ヒヤリハットを見逃さず、報告書に記入し、研修でも伝え、全職員に周知してもらい再発防止に努めた。 今年度も年に1回、外部から救命救急士を呼び、AED講習会を開催して実践を身に着けた。 消防職員が来園し、日頃行っている避難訓練の様子を見てもらい、評価してもらった。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防署員からの避難訓練の問題点・注意点を記録し、回覧及びメール配信で全職員が共有できるようにしたい。 同じようなケガが繰り返し起きているので、原因や対応策をもっとクラス間で話し、防いでいきたい。

園から（成果と今後の課題）

『笑顔いっぱい みんなが主役』を年間目標とし、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して過ごせる環境づくりや援助を心がけたことで、笑顔あふれる日々につながったと思います。また、子ども自身が主体的に生活ができたり、活動に参加できるよう援助し、それぞれが“主役”として輝ける場面を多く持つことができました。

日々の保育の中では、一人ひとりの気持ちや発達を丁寧に受け止め、個別に関わる時間を大切に声かけや援助を行い、信頼関係を深めることができました。

保育室の環境づくりは毎年の課題ではありますが、子どもたちが安心して主体的に遊び込めるよう、興味や関心・発達に応じた環境構成を常に工夫し、自ら選んで遊びを楽しめる環境づくりを強化しました。

防犯カメラを保育室・園庭に2台ずつ増設し、防犯体制の強化も行いました。

保護者の方の負担軽減のため、オムツのサブスク(希望者のみ)を導入しました。

新たに一時預かり事業を開始し、地域の子育て支援の充実に取り組みました。利用者との丁寧な連携を図りながらこれからも安心・安全な保育提供に努めていきたいと思っています。

今後も子どもたちが安心して自分らしく過ごせるよう、より良い保育の実践に向け、環境や支援の充実を図って行きたいと思っています。信頼される園づくりを心掛け、保護者の方が安心してお子さまを預けられる園を目指します。